

**第154回まちづくり町民講座**  
**地域おこし協力隊のギモン～現役隊員と受入先が語る地域おこしのリアル～**  
**開催結果**

1. 日 時：平成28年10月13日（木）18：30～20：45

2. 場 所：ニセコ中央倉庫群 旧でんぷん工場

3. 参加者：43名（一般34名、役場職員9名）

4. 内 容：

①挨拶（5分）

②役場職員発表（20分）：役場企画環境課 金井参事  
現状、制度説明、導入意義、課題について

③現役隊員発表（20分）：地域おこし協力隊 聖隊員  
隊員紹介、活動内容、隊員の意識、要望・提言について

④配属先発表（20分）：ニセコリゾート観光協会 梅津事務局長  
受入体制整備、配属後の課題、隊員の将来について

休憩（10分）

⑤発表者によるパネルディスカッション（来場者との意見交換含む）（60分）

5. パネルディスカッション（敬称略）

・各発表を聞いての感想

→金井：配属先での活動と協力隊活動の両立が論点になっているが、制度の趣旨上、配属先での活動と協力隊活動は一致すべきではないか。

聖：地域課題の解決のため、隊員と配属先が同じ方向を目指す必要がある。配属先とのコミュニケーションが重要。協力隊のあり方がルール化されると良い。

梅津：今日の町民講座への参加を通して、協力隊のミッションの意味がより深く理解できた。

・協力隊を各事業所に配属させるシステムについて

→金井：前述のとおり。

聖：配属先で何をすべきかについて、各配属先での捉え方が一律ではない。配属ありきではなく、地域課題の解決のためにはどのような活動のあり方がふさわしいのかを検討したうえで配属というシステムを選択すべき。

梅津：配属先の課題解決に合った属性を持つ隊員を配置すべき。

・会場からの意見等

→・協力隊のやりたい活動と配属先のマッチングは難しいと思う。

・配属先がどのような人材を求めているのかを明確にして協力隊を募集すべき。

- ・観光協会は、協力隊を受け入れるに当たり、体制まで考えているのがすごく良い。他の配属先も果たしてここまで考えているだろうか。
- ・協力隊の活動内容の方針やビジョンは、配属先任せではなく、役場から示すべき。どんな地域課題があるか、役場でちゃんと把握できているのか。ビジョンを持っていないようにも感じる。
- ・これまでの歴史的な流れを把握している立場から捉えると、これまでの協力隊の活用方法を見直していくという思いが伝わってくる。
- ・今日の議論を踏まえ、来年度の募集内容に反映すること。募集内容の決定プロセスも町民に分かるようにすべき。
- ・何のために協力隊を募集するのか、地域、配属先、役場の共通認識が必要。
- ・協力隊の制度概要では、地方に人材がないので、都市の人材を呼び込むものと感じる。田舎には人材がない前提になっているはおかしいと思う。

・会場からの意見を聞いて

→金井：これまで町として制度を的確に使いこなせていなかったのが歯がゆかった。今回の議論も踏まえながら、活用方法を見直していく。来年度の募集方法等にも反映する。

協力隊の制度概要中の表現については、総務省資料を引用しているだけのため、ご容赦をお願いしたい。

・協力隊として地域を知るために配属先に専念することについて

→聖：配属先の業務に専念して地域を知ることは大事なことと感じている。

金井：協力隊はアルバイトのように配置しているわけではない。総合職か一般職かであれば、総合職と捉えるべき。その一方、町の各種イベントの際、単なる労働力として協力を求めている実態があった。どうあるべきか今後考えたい。

梅津：配属先に専念するかどうかは、隊員個人の属性にもよる。隊員と十分なコミュニケーションを取った上で決定すべき。

・隊員のスキルを生かした課題解決に向けてのオペレーションはどうすべきか

→金井：地域課題は、今年3月に策定したニセコ町自治創生総合戦略の中で、すでに取りまとめである。ただし、隊員が活動を通して見出した課題が、総合戦略に位置づけた地域課題と一致しない場合も考えられる。

聖：由仁町では、協力隊の募集段階でミッションを明示している。明示されたミッションがあるので、採用後の活動はスムーズとのこと。しかし、情勢の変化によりミッションが取り止めになることもあり、その場合は、隊員の活動内容の方向転換に苦慮しているようだ。

梅津：隊員には、短い期間の配属では、レベルの浅い地域課題しか見つけられないのではないかと。本当の地域課題は、配属先に浸かることで見つけることができるのではないかと。(隊員の社会経験・年代によって状況は変わるが。)

・会場からの意見

→ ・ 隊員が課題を見つけることは難しいと思う。

・ 隊員に専門的なミッションを与えることがいいのではないか。

・ 役場はミッションに合う人材を集めてほしい。

・まとめ

→ 金井：これまで、地方に対する国の支援といえば、公共事業や財政支援が中心だった。

協力隊のような人的支援は、珍しい制度ではないか。制度継続の必要性を地方から発信できるよう、地方が制度を使いこなす必要がある。

全国的に制度運用に苦勞する市町村が多い中、「町民主体のまちづくり」のニセコ町には合っている制度だと思う。協力隊のあり方について、今回の町民講座だけで終わらず、継続して町民の皆さんと議論したい。

会場アンケート（文章表現はアンケート用紙記載のとおり）

1	今回、せっかくこのような場を設けていただいたのに、配属先の人が全く来なくて残念だった。もう一度、配属先、役場、協力隊を集めて改めて話してほしい。
2	地域おこし協力隊の募集の段階からの見直しができそうでよかった。
3	受入先によって隊員を受け入れる姿勢がまったく違うことが根本的な原因だという意見が非常に的を射ていて印象的でした。 役場と受入先がしっかり隊について話し合い、意識を共有してほしいです。また、協力隊個人個人の背景や能力に合った活かし方を考えてほしいです。 人を生かし、人に生かされる町であってほしいです。
4	協力隊の制度の導入がせっかくあるのですから、やはり協力隊がギモンに思った課題を、きちんと解決する場があり、その結果を町民に知らせる報告書なり、場が必要だと思っています。今後の活動を楽しみにしています。
5	協力隊からの発表は、10人の意見をバランスよくまとめた課題で、受入側の発表は個人に対する内容だった為、他の受入先の意見・本音も聞いてみたいと思った。 採用後、三者それぞれと定期的な面談・課題解決を行うべき。
6	①「地域課題」役場の各セクションが明確に持った上で募集すべきという意見に賛同します。（地域課題「隊員」にどう求めるのか） ②応募する側の立場を推定すると、（或いは次のステップに向けて）それまでの自分の生き方を振り返って、新たな「職場」の一つとして選び、納得した生き方を求めているのではないだろうか。 ③①と②のバランスを取って、いい制度としてほしい。
7	・ 募集項目の細分化することが必要 ・ そのポジションでニセコ町に来てやってみたい人のみをみつめる。 ・ プロフェッショナルな面も人材に必要。 ・ キャリアUPなのかアルバイトなのかを明確にする。 ・ そろそろ人集めをミッションを決めて行いましょう。

8	<p>隊員には共通したミッションとして地域課題を見つけてほしい。そのためには配属先での仕事を通じてしか発見できないと思います。3ヶ月しか勤務していないので「ニセコでは水曜日に食事ができないね」ということしか課題がわからないという梅津さんの話もありましたが、それを深く考えて解決方法を探れば、大きな課題につながっていることがわかると思います。</p>
9	<p>全配属先の話聞いてみたかった。</p>
10	<p>実際に働いている協力隊の生の声が聞けて、受入側の立場としていろいろ考えることができ良かったです。</p> <p>それぞれの協力隊の方たちが、任期を終えた後に、ニセコ町の協力隊で良かったと心から思えるような活動ができることを心から祈っておりますし、応援していきたいと思います。</p>
11	<p>配属先で、困っている人がいたら、役場が積極的に助けに行くべきだと思います。</p> <p>(配属先との交渉役になる等)</p>